

# 中学生のスポーツライフスタイルと学校生活スキルの関係について

## About the relation between junior high school student's sports lifestyle and life skill

1K06B124

指導教員 主査 木村和彦先生

関 智佳

副査 友添秀則先生

### 1. はじめに

本研究は、中学生のスポーツライフスタイルと学校生活スキルの関係を明らかにすることを目的とした。そうすることで、教師の生徒理解を促すと同時に、スポーツ活動の役割について理解を深めることができると考える。なお、本研究ではスポーツライフスタイルを現在のスポーツ活動の有無、競技特性、所属、スポーツを行う理由、参加頻度、競技成績、役割の有無、以前のスポーツ活動の有無、以前の所属から表されるものとする。また、学校生活スキルは、飯田ら（2002）によって定義された「中学生が学校生活を送る上で出会う発達課題・教育課題の解決を促進するスキル」という意味で使用する。

### 2. 研究方法

A 中学校の第2学年の生徒127名を対象に、質問紙による調査を行った。質問紙はスポーツライフスタイルに関する項目と学校生活スキルに関する項目により構成された。調査票の各項目については、度数分布表に出力することによって全体的な傾向をみた。また、学校生活スキルに関しては、主成分法、バリマックス回転による因子分析を行った。さらに、バリマックス回転後の各因子の因子得点を算出した。スポーツライフスタイルの各項目については、学校生活スキルの各因子と比較するため、それぞれt検定、一元配置分散分析を行った。

### 3. 結果と考察

学校生活スキル尺度の因子分析の結果、「コミュニケーションスキル」「自己学習スキル」「集団活動スキル」「進路決定スキル」「健康維持スキル」の5つの因子から構成されていることが示された。次に、学校生活スキルの各因子とスポーツライフスタイルについての各項目の間でt検定、一元配置分散分析を行った結果、次の7つのことが示された。女子は男子よりも自己学習スキルが高い。現在、習慣的に運動・スポーツ活動を行っている生徒は、行っていない生徒よりもコミュニケーションスキルが高い。

運動部活動のみに所属している生徒は、運動部活動と学校外の運動・スポーツ活動の両方に所属している生徒よりも自己学習スキルが高い。

団体競技を行っている生徒は、個人競技を行っている生徒よりも進路決定スキルが高い。競技成績をもっている生徒は、競技成績をもたない生徒よりも進路決定スキルが高い。加入している組織の中で、部長やキャプテンなどの役割がある生徒は、役割がない生徒よりも集団活動スキルが高い。中学生期以前に習慣的な運動・スポーツ活動を行っていた生徒は、行っていなかった生徒よりもコミュニケーションスキル、健康維持スキルが高い。また、理由、参加頻度、以前の所属については、すべてのスキルにおいて統計的な有意差が認められなかった。

### 4. まとめ

サンプル数に偏りがあり、分析結果に若干問

題が残る部分もあったが、本研究によって中学生のスポーツライフスタイルと学校生活スキルの関係にある程度明らかにすることができた。スポーツライフスタイルによってスキル獲得の程度が異なることが確認され、スポーツ活動はスキル獲得を促す効果があることが示された。

今後さらに理解を深めていくためには、縦断的な研究やスキル獲得に影響する要因についての研究もなされるべきであると考える。